

施策・基本事業評価表

優先度: 成果=中。財源=低。●社会教育課 中央公民館

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
5-3	生涯学習・スポーツの推進	市民	自己表現、自己充実、地域貢献を図るため、市民が継続的に学習やスポーツを行っている。	成果	生涯学習・運動を習慣化している市民の割合	40.1	41.7	40.8	41.9	43.5	42.7	47.0	▲	45.7	▲	順調	生涯学習・運動を習慣化している市民の割合は、45.7%で昨年より1.3ポイント減少したものの目標値を超えており、順調である。 具体的な分野では趣味、軽スポーツ、スポーツの順となっており、広域公園など活動できる場所の整備などが影響していると思われる。 また、年代別では、25歳から59歳までの年代が低く、就労年代では生涯学習に取り組めていないことが分かる。	第2次生涯学習推進基本計画のキャッチフレーズである「学びあい 育ちあい いかしあうまちづくり ちくご」の推進に向け、生涯にわたりいつでも学ぶことができ、学んだ成果がいかされる生涯学習社会を目指し、生涯学習・スポーツの推進に努める。

番号	基本事業名称	基本事業	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	市民が主体の生涯学習推進体制の強化	市民	市民が、生涯学習・スポーツを始めるきっかけや、自立して継続的に学習できる環境が整っている。	成果	人材バンク登録者数(人)	72	75	78	76	82	88	87	140	93	140	横ばい	24年度中は、新規登録者が11名、取り消された方が5名で、93名の登録者となった。	人材バンク登録者の生涯学習ちくご等の情報誌での紹介、無料の「学びあい体験講座」の開催などで利用者の拡大を目指し、登録者の増加も図る。
				成果	自主学习団体登録数(団体)	698	731	732	703	760	826	832	800	852	850	順調	24年度の登録数は852団体で、内訳はサンコア利用登録団体624、文化連盟65、自治公民館活動団体163となっている。	中央公民館・サンコアが主催する講座や人材バンクの学びあい体験講座等の受講生がその後自主運営として学習活動を継続させるよう働きかける。また、中央公民館出張所で開催する講座を充実する。
02	生涯学習・スポーツ情報の提供	市民	市民が、生涯学習・スポーツの情報を十分に収集することができる。	成果	情報提供の量や内容に満足している市民の割合(%)	91.6	91.7	90.4	90.9	92.5	92.8	92.1	▲	92.3	▲	順調	満足している市民の割合は92.3%で、概ね目標値に近づいており順調である。 読みやすく親しみやすい紙面づくりに努めたことも影響していると思われる。	情報提供は生涯学習ちくごの他、市のホームページや広報ちくご、生涯学習ガイドブック、中央公民館出張所の機関紙などで行っている。 それぞれの特性を活かした情報発信を行い、生涯学習・スポーツの推進につなげる。
03	生涯学習・スポーツの機会の提供	市民	市民が、様々な生涯学習・スポーツの機会を利用し、活発に活動している。	成果	生涯学習参加者数(人)	13,627	13,837	10,733	12,097	9,796	10,436	10,169	15,000	11,154	12,000	順調	前年より約1,000人増加し、11,154人となった。内訳は、中央公民館事業6,126人、図書館事業3,324人、勤労者家庭支援施設事業1,704人で、中央公民館出張所講座の参加者数の増加が主な増加要因となっている。	さらに中央公民館・出張所・図書館・勤労者家庭支援施設それぞれの特色を活かした講座を開催していく。
				成果	市の施設を利用してスポーツを行っている件数(件)	-	-	-	-	-	7,823	7,825	-	7,710	8,200	横ばい	市の施設利用者は、概ね横ばいで推移している。施設ごとの利用者は、学校開放3,114件、水田コミセン1,320件、窓ヶ原体育館1,567件、市民の森1,709件で、前年度に比べると市民の森が22ポイント増加し、学校開放が10.5ポイント減少している。	広報誌やホームページなどで施設の内容・利用方法の周知を行い、各施設の有効利用を図る。
				成果	生涯学習やスポーツの機会が十分にあると思う市民の割合(%)	78.5	79.6	80.8	82.1	82.7	83.2	85.0	▲	83.8	▲	順調	生涯学習やスポーツの機会が十分にあると思う市民の割合は83.8%で、前年より1.2ポイント減少したものの目標値の85.0%に近い。 年代別でも大きな差はないが、目標値である85%を上回るのは60歳から69歳で、生涯学習・運動を習慣化している割合が高い年代と重なる。 また、地域別では満足度に大きな差は出ていないが、満足度80%を下回っているのは水田・下妻校区で、不満の割合が一番高いのは筑後北校区となっている。	生涯学習やスポーツに関する各種講座などにより、新たに生涯学習を学びたい市民や新たにスポーツを始めたい市民の支援を行う。 ラジオ体操が実施されていない地域に新たに開始することを推進し、支援する。 県民文化祭2013オープニングイベントを25年10月にサザンクス筑後で開催する。 ちっごマラソンにハーフマラソンの種目を追加する。 芝桜の苗を地域で定植してもらい、市内に芝桜を広げていく。 地域活動実践型生涯学習事業に取り組む。

番号	基本事業名称	基本事業	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
04	生涯学習・スポーツの活動拠点の充実	市民	生涯学習・スポーツを推進するための施設を充実することで、市民の活動の場が確保されている。	成果	生涯学習・スポーツ活動をする施設が充足していると思う市民の割合(%)	71.8	71.9	73.9	75.6	76.5	78.2	80.7	▲	79.1	▲	順調	生涯学習・スポーツ活動をする施設が充足していると思う市民の割合は79.1%で、前年より1.6ポイント減少したものの目標値の80.0%に近い。年代別では40代の満足度が低い。不満・どちらかと言えば不満の方の要望としては、トレーニングジム・温水プールの新設や図書館の充実を求める声が多い。地域別に見ると満足度が高いのは、水洗、古川、筑後校区の順、不満の割合が高いのは水田、筑後北、二川校区の順になっている。	生涯学習施設としては、新たにオープンした九州芸文館と既存の勤労者家庭支援施設・図書館・サザンクス筑後・町内公民館等との連携を深め、有効活用できる取り組みを行う。また、安心して快適に利用できるようサンコアの耐震工事やサザンクス筑後の改修工事を行う。スポーツ施設としては、夜間の学校開放事業をはじめ、窓ヶ原体育館、水田コミュニティセンター・市民の森テニスコートやを筑後広域公園の有効活用を図る。
				成果	サザンクス筑後自主事業で行われた芸術文化活動の鑑賞者数(人)	10,492	11,406	19,188	12,560	13,817	14,380	13,320	11,500	13,613	15,000	横ばい	鑑賞者数は、ここ数年は横ばい状態である。多様なジャンルの鑑賞事業や講座、教室、市民ミュージカル、文化芸術による街づくりコーディネーター養成講座の取り組みが行われている。	自主事業の内容は、指定管理者である筑後市文化振興公社が企画するものであるが、広い年代層、特に若い年代層を対象にした鑑賞事業の実施を促す。また、小学校に出向き「表現、コミュニケーション、演劇能力」を指導する「アウトリーチ事業」は、定着した。今年度は、市内10小学校で実施する。
				成果	図書館の貸し出し冊数	104,548	123,363	142,335	176,028	217,100	244,759	248,496	-	279,007	300,000	順調	リクエストされた本や新刊本を購入し、利用者のニーズに応えることができた。また、情報拠点としての貸し出しサービスや調べものサービスやお話し会・講演会・アウトリーチサービス・ボランティア育成などを行い、図書館を身近な施設として感じてもらったことが貸し出し冊数の増加にもつながったと考えられる。	さらに、アウトリーチサービスを充実させるとともに、雑誌スポンサーの拡充も図る。子ども読書推進計画を策定する。郷土資料や行政資料を収集し、蔵書として管理することで、市民がいつでも郷土について学べる資料を増やす取り組みを行う。
				成果	サザンクス筑後で芸術鑑賞をした市民の割合(足を運んで)(%)	31.6	31.7	30.3	27.4	26.8	29.5	25.0	▲	25.7	▲	横ばい	サザンクス筑後で芸術鑑賞をした市民の割合は、昨年より0.7ポイント増加したものの22年度までの水準には戻っていない。年齢別に見ると、65歳以上は36.7%と高いものの、30歳未満は約10%、30歳～64歳までは約20%と低い。	指定管理者に広い年代層、特に若い年代層を対象にした鑑賞事業の実施を促す。また、自主事業以外の貸館事業においても、より魅力的なコンサートなどの誘致を図っていく。